

茨城県内に生息するマダニおよびリケッチアの浸潤状況について

茨城県衛生研究所

研究の背景

マダニの咬刺が原因となるリケッチア感染症の対策には、野外に生息するマダニの実態を明らかにすることが重要です。本研究では、県内に生息するマダニおよび保有するリケッチアの浸潤状況を調査しました。



実施内容

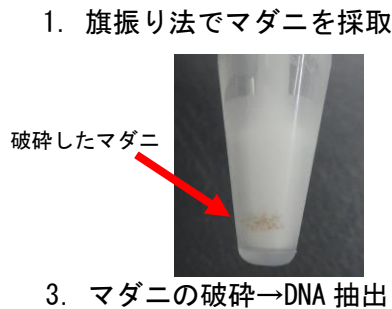
○マダニの調査

- (1) 2020 年～2023 年に県内でマダニを採取
- (2) マダニの形態から種を同定



○保有するリケッチアの調査

- (1) マダニを凍結破砕
- (2) DNA を抽出
- (3) リケッチア遺伝子の検出



成果

- ・ 11 種類のマダニが生息していることを確認
- ・ 国内でヒトへの病原性が確認されている 2 種類のリケッチアを検出

ヤマアラシチマダニ → リケッチア・ジャポニカ※
※日本紅斑熱の原因

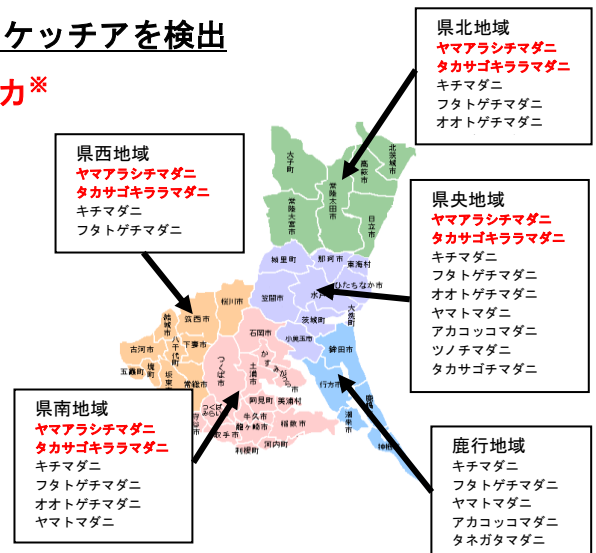
タカサゴキララマダニ → リケッチア・タムラエ



ヤマアラシチマダニ



タカサゴキララマダニ



将来の展望

- ・ 県民および医療機関等の関係機関に調査結果を広く公表
→ 本疾病の未然防止、早期診断・治療に貢献
- ・ 今後、各マダニ種の活動時期の解明
→ より効果的なマダニ媒介感染症の注意喚起へ

